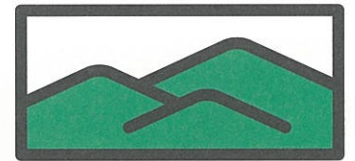


日本山岳遺産基金通信



日本山岳遺産基金
JAPAN MOUNTAINS HERITAGE FUND

2019年度、当基金は設立10年を迎えました。これもみなさまからの継続的なご支援のおかげです。心よりお礼申し上げます。春にはウェブサイトのリニューアルいたしました。『日本山岳遺産基金通信』は発行回数を年1回へ変更いたしますが、そのぶんサイトを通じて迅速な情報発信を行ってまいります。ぜひ、sangakuisan.yamakei.co.jpをご覧ください。

新たに5地域／5団体を認定。 日本山岳遺産の認定地は全国35地域に

本年度は日本山岳遺産の創設から10年の節目の年となります。認定にあたっては、各地域で山岳環境保全や安全登山啓発、次世代育成を目的とした活動を続けている6つの団体から申請がありました。アドバイザリーボードの助言のもと、事務局で検討を重ねた結果、下記③1～③5の5地域／5団体を新たに認定することとしました。各認定団体には来年度の活動に供する助成金を、本年度末（2020年3月末）に支給し、山と溪谷社／日本山岳遺産基金

の雑誌やウェブサイトなどの媒体を通じて、活動を支援していきます。これで当基金が認定した日本山岳遺産は北海道から九州まで全国35の地域／団体となりました。

2020年2月には東京・神保町で第10回「日本山岳遺産サミット」を行います。新認定の各地域／団体の活動紹介などのほか、この10年間で認定された各地の方々をお呼びし、これまでより規模を拡大したサミットとして開催いたします。

*認定地・認定団体の紹介と日本山岳遺産サミットについての詳細は次ページ参照

2019年度日本山岳遺産とこれまでの認定地

- ① 櫛形山 (山梨県) / 櫛形山ネットワーク
- ② 小金沢シオジの森 (山梨県) / シオジ森の学校
- ③ 乙女高原 (山梨県) / 乙女高原ファンクラブ
- ④ 石鎚山 (愛媛県) / 久万高原町
- ⑤ 早池峰山 (岩手県) / 早池峰にゴミは似合わない実行委員会
- ⑥ 九州中央山地五家荘エリア (熊本県) / 泉・五家荘登山道整備プロジェクト
- ⑦ 夕張岳 (北海道) / ユウバリコザクラの会
- ⑧ 七時雨山 (岩手県) / 七時雨ロマンの会
- ⑨ 臥龍山 (広島県) / 芸北自然保護レンジャー
- ⑩ アポイ岳 (北海道) / アポイ岳ファンクラブ
- ⑪ 金華山 (宮城県) / 特定非営利活動法人FIRST ASCENT JAPAN.
- ⑫ 船窪岳 (長野県・富山県) / 船窪小屋・道しるべの会
- ⑬ 大台ヶ原大杉谷 (三重県) / 公益社団法人大杉谷登山センター
- ⑭ 吾妻山 (福島県) / 吾妻山自然倶楽部
- ⑮ 嶺ノ峰 (長野県) / 長野県大町岳陽高等学校山岳部
- ⑯ 徳本峠 (長野県) / 古道徳本峠道を守る人々
- ⑰ 南木曾岳 (長野県) / 南木曾山士会
- ⑱ 三嶺 (高知県・徳島県) / 三嶺の森をまもるみんなの会
- ⑲ 美瑛富士 (北海道) / 山のトイレを考える会
- ⑳ 嘉穂アルプス (福岡県) / 嘉穂三山愛会
- ㉑ ニツ森 (秋田県) / 一般社団法人白神コミュニケーションズ
- ㉒ 岩手山 (岩手県) / 岩手山地区パークボランティア連絡協議会
- ㉓ ミツ峠 (山梨県) / ミツ峠ネットワーク
- ㉔ 霧ヶ峰 (長野県) / 霧ヶ峰草原再生協議会
- ㉕ 入笠山 (長野県) / 入笠ボランティア協会
- ㉖ 伯耆大山 (鳥取県) / グラウンドワーク大山蒜山
- ㉗ 大雪山・黒岳 (北海道) / 一般社団法人大雪山・山守隊
- ㉘ トムラウシ山 (北海道) / 新得山岳会
- ㉙ 飯豊山 (栃木県) / 特定非営利活動法人飯豊朝日を守る会
- ㉚ 鹿沼市・岩山 (山形県・新潟県・福島県) / 機動パトロール隊

①～⑳は2018年度までに認定の日本山岳遺産



2019年度 日本山岳遺産認定地・認定団体の紹介

新たに認定した5つの日本山岳遺産、それぞれの認定地の概要と認定団体の活動内容を紹介します。

青森県 たかだ おおだけ 高田大岳

認定団体 十和田山岳振興協議会

山の概要 八甲田山系は、八甲田大岳を主峰として南北2群の火山をそれぞれ中心に、17の火口丘群で形成されている。その中で高田大岳（1552m）の山容は美しい円錐形で、特に目を引く峻嶺である。標高1000mくらいまでブナ林を主体とした落葉広葉樹林が広がり、その上はアオモリトドマツ林、1400m以上ではハイマツ林となる。

認定団体 十和田市の谷地温泉登山口から高田大岳などへの登山道は、全国的に悪路として有名だった。ここを、安心して楽しく登れるように整備し、多くの登山者・観光客の来訪と、地域の活性化をめざすために2014年12月設立。2016年に高田大岳の刈り払いが初めて行われると、多くの入山者が訪れるようになった。

認定理由 該当の登山道は継続的に整備していかないと維持できないもの。地域振興と自然保護の両立が成されている点を評価。高田大岳では今までに遭難が多数発生しているが、登山道整備を行うことで皆無になったとのこと。今後とも継続整備を期待する。



2019年に行われたボランティアによる刈り払いの様子

富山県 おおがさやま 大笠山

認定団体 五箇山自然文化研究会

山の概要 大笠山は両白山地の主稜線の北部に位置し、日本三百名山に選定されている。遠景からは編笠状でなだらかな山容をしているが、桂湖登山口からフカバラ尾根を通る登山道は標高差が1200mあり、長く急峻である。尾根上には火成岩や凝灰岩が多く、天然の檜や五葉松が自生し、登山道の途中には幹の空洞に人が入れるほどの大木がある。

認定団体 五箇山の自然・受け継がれてきた生活の知恵・文化遺産についての認識を広め、その継承に努めることを目的として1993年設立。五箇山の解説活動、体験活動や、登山道・峠道の整備（大笠山、猿ヶ山～袴腰山、桂湖周辺、高坪山、人形山、金

剛堂山など）などを行う。

認定理由 登山道整備等の環境保全活動に加えて、伝統文化の体験行事を継続して行っている点を評価。このような活動によって地域の山岳自然と文化が守られており、次世代登山者の育成にもつながると考える。



登山道や水場の整備を行う

滋賀県 いぶきやま 伊吹山

認定団体 伊吹山を守る自然再生協議会

山の概要 伊吹山は標高1377mの起伏山塊で、典型的な石灰岩地帯に属し、山頂にはカレンフェルト地形（石灰岩の墓石様地形）や巨大な石灰露岩が見られる。南斜面は急崖となっており、山脚部には扇状地を形成し、弥高、上平等の集落が形成されている。伊吹山には、滋賀県に生育する植物約2300種のうち約1300種が生育しており、滋賀県唯一の植物の宝庫である。

認定団体 2008年3月設立。お花畑維持管理事業、登山道維持管理事業、公衆便所維持管理事業、パトロール・啓発活動など、伊吹山の環境および景観を保全、再生するために必要な活動を行う。2015年度、2016年度の2年をかけて、山頂お花畑周辺の植生防護柵を設置し、その維持・管理を実施している。

認定理由 「花の百名山」としても知られてきた歴史ある名峰の山岳自然環境の保護・保全活動であり、10年以上にわたって継続している点を評価。活動は地元行政が主導しており、多様な事業の実行力や持続力などにも期待がかかる。



保全のため登山道に鉄杭を設置

滋賀県
京都府

比叡山・比良山地

認定団体

比良比叡トレイル協議会

山の概要 琵琶湖西岸に南北に連なる山々で、南の峰は大比叡(848m)、四明ヶ岳など5峰をあわせて比叡山、さらに稜線には途中、峠から北へ権現山、蓬萊山、比良岳、最高峰の武奈ヶ岳(1214m)など1000m級の山々が連なり比良山地と呼ぶ。比良山地からは琵琶湖のみならず伊吹山から鈴鹿山脈、遠く白山や御嶽山が見える。山地の地形は湿地や池、滝など変化に富み、ミズナラ、コナラやブナなど多様な樹木と四季折々の花が美しい。

認定団体 全国に広がるNPO法人日本ロングトレイル協会の活動趣旨に賛同し、2016年に活動を開始。同年9月から2017年8月まで、トレイルの予定ルート50kmの調査を開始。2018年度に道標の設置第1期(山麓の起点11本)を完了したが、2018年9月に発生した台風により、山稜へのルート全域が被害を受け、歩行が困難にな

った。2019年4月から6月まで延べ90名が倒木を整備し、歩行が可能になった。

認定理由 いくつかの関係団体が連携して実質的な活動をしている点を評価。対象エリアは広域で、各団体が協力し合っ

てこそこの登山道整備事業が成り立つものである。また、道標設置により登山者の安全に寄与することも期待。



歩行できるよう倒木を処理した

福岡県
佐賀県

脊振山系

認定団体

脊振の自然を愛する会

山の概要 福岡・佐賀県境にまたがる東西50km、南北25kmほどの山域で、両県の重要な水資源地となっている。多様な植生があり、春夏は多くの山野草に彩られる。福岡市街からほど近く、地域住民の野外活動も盛ん。多くの修行僧が暮らす山岳密教の修験場だった痕跡が多数残り、臨済宗の開祖・栄西が中国から持ち帰った茶を植えた日本茶の発祥地。山域最高峰は脊振山(1055m)。

認定団体 2008年に西南学院大学WV部OB・OGと福岡市早良区役所協働の道標設置活動を継承し、2012年に設立。以来、脊振山系の道標整備や登山道・遊歩道整備、自然保護活動を実施。また、同区役所と協力して、山開きや清掃登山を通じた環境活動を行っている。脊振山系で活動する行政・ボランティア団体と連

携・交流しながら、遭難救助活動に役立つ「脊振山系レスキューポイント」の制作・設置を計画している。

認定理由 母体となった大学のOB・OG団体や地元の行政機

関と密に連携し、継続的な活動を行っている。今回の助成金の用途は地域での遭難救助に資するものであり、今後も長く活用されていこうという点も評価した。



新しい道標設置作業の様子

2020年2月に第10回「日本山岳遺産サミット」開催。特別講演は「登山道の荒廃に登山者は何ができるか」

今回で10回を数える日本山岳遺産サミット。例年以上に多くの方に参加いただけるよう会場規模を拡大するとともに、この10年間の日本山岳遺産認定地の活動状況が閲覧できる各認定地の紹介ブースを会場内に設定します。

第1部では、本年度の日本山岳遺産5箇所を招いての認定式と活動報告、第2部では、北海道大学大学院農学研究院・愛甲哲也先生を迎えて「登山道の荒廃に登山者は何ができるか」をテーマに特別講演を行います。ぜひご参加のうえ、ご聴講ください。



前回のサミットにて。各認定団体の方々と特別講演の北大・工藤岳先生との集合写真



北大の愛甲哲也先生。国立公園など自然保護地域の利用や管理に関する研究を行っている

第10回 日本山岳遺産サミット開催概要

日時 2020年2月15日(土) 13時～16時(開場12時30分)

会場 一橋講堂中会議室
東京都千代田区一ツ橋2-1-2 学術総合センター内

内容 第1部: 2019年度活動報告
2019年度日本山岳遺産 認定地/団体 発表
第2部: 特別講演
「登山道の荒廃に登山者は何ができるか」
北海道大学大学院農学研究院 愛甲哲也先生

参加費 500円 *寄付金として助成や啓発活動に活用します

定員 150名 *事前申し込み必要。未就学児はご遠慮ください

申込方法 日本山岳遺産基金のウェブサイト
(sangakuisan.yamakei.co.jp) から申し込み

申込締切 2020年2月12日(水)
*定員に達した場合、締め切り前でも受付を終了します

主催 日本山岳遺産基金・山と溪谷社

「北アルプス安全登山アピール」を後援

7月6日(土)、富山、長野、岐阜県の山岳遭難救助隊や自治体などで構成される「北アルプス三県合同山岳遭難防止対策連絡会議」が「北アルプス安全登山アピールin東京2019」を東京・神田神保町で開催し、約90人の登山愛好家に安全登山を呼びかけました。本イベントを当基金が後援・協力しました。

第1部は「遭難の実態を知ろう」というテーマで、3県の山岳警備隊・山岳遭難救助隊の隊長・副隊長が、最近の遭難事例をもとに、遭難しないための対策やアドバイスを紹介。また、特別PRとして石川県警の山岳遭難救助隊も登壇し、「白山における安全登山について」と題して白山の遭難事例を解説しました。

第2部のトークセッションでは、聴衆から安全登山に関する質問がなされ、「同行者が遭難したとき、救助要請後に何をすべきか」との質問には「場合によるが、体を冷やさないように保温措置を」(長野県警察山岳遭難救助隊・榎引知弘隊長)など、救助活動に携わる方々と活発な意見交換がされました。

岐阜県警察山岳警備隊の飛騨方面小隊長・陶山慎二朗さんは「登山は生死に関わる野外スポーツ。遭難に対する意識を常にもってほしい」と話しました。



現場からの貴重なアドバイスを聞く

日本山岳遺産認定地のボランティア活動に参加

11月23日(祝)、日本山岳遺産認定地である乙女高原(山梨県)で第20回草刈りボランティアが開催されました。

前日までの雨で実施が危ぶまれましたが、当日は途中晴れ間が広がる時間帯もあり、234名の草刈りボランティアは機械刈り班、手刈り班などいくつかの担当に分かれて作業を行いました。

当基金事務局からもボランティアに参加。ツツジが生えているエリアの草を手で刈っていききました。刈った草は遊歩道に敷き詰め、

ブルーシートを使って草を運び出しました。

かつてスキー場だったエリアの草刈りはお昼前には終了。地域の行政、市民、企業そして乙女高原を応援する大勢のボランティアの協働で運営され、参加した皆さんが生き生きと作業しているのが印象的でした。



刈り取った草を遊歩道に敷き詰める

「東北の高校生の富士登山2019」を後援

東日本大震災で被災した東北の高校生たちに勇気と元気を得てもらおうと、故・田部井淳子さんが立ち上げた「東北の高校生の富士登山」プロジェクト。8年目の今年は、7月23日(火)～25日(木)の日程で行われました。法人賛助会員のアルパインツアーサービス

(株)がツアーを取り扱い、当基金は後援として協力。

登山当日は晴天に恵まれ、参加した高校生104人全員が登頂しました。これでプロジェクト開始から富士山頂に立った高校生は累計679人となりました。

組織(2019年12月20日現在)

■正会員

株式会社山と溪谷社
株式会社インプレスホールディングス

■会長

川崎深雪(株式会社山と溪谷社 代表取締役社長)

■監事

二宮宏文(株式会社インプレスホールディングス 執行役員)

■事務局長

吉野徳生(株式会社山と溪谷社)

■特別会員

公益社団法人日本山岳会
公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会
日本勤労者山岳連盟

■法人賛助会員(50音順)

株式会社アライアント
アルパインツアーサービス株式会社
株式会社コンピニオスポーツウェアジャパン

株式会社システム・クリエート

株式会社千秋社
株式会社総合サービス
株式会社トラベルギャラリー
日本山岳救助機構合同会社(jRO)
日本費用補償少額短期保険株式会社
株式会社finetrack
有限会社穂高岳山荘
北海道地図株式会社
株式会社毎日企画サービス
株式会社モンベル

■個人賛助会員

1名

■アドバイザーボード

下野綾子(公益社団法人日本山岳会、東邦大学講師)
田中文男(公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会顧問)
西本武志(元日本勤労者山岳連盟会長)
山川陽一(公益社団法人日本山岳会)
野口 健(アルピニスト)

2018年度収支報告

前年度繰越金…………… 15,581,299円

収入

会員費…………… 1,100,000円
協力金等…………… 1,002,312円
寄付金等…………… 640,591円
その他…………… 26,139円
収入合計…………… 2,769,042円

支出

プロモーション費…………… 129,400円
イベント費用…………… 286,261円
基金運営費…………… 213,776円
助成金…………… 2,260,000円
支出合計…………… 2,889,437円

収支…………… ▲120,395円
次年度繰越金…………… 15,460,904円



日本山岳遺産基金事務局

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-105 神保町三井ビルディング 株式会社山と溪谷社内

TEL 03-6744-1900(代表) FAX 03-6744-1928

http://sangakuisan.yamakei.co.jp/ e-mail: kikin_info@yamakei.co.jp

発行=2019年12月20日